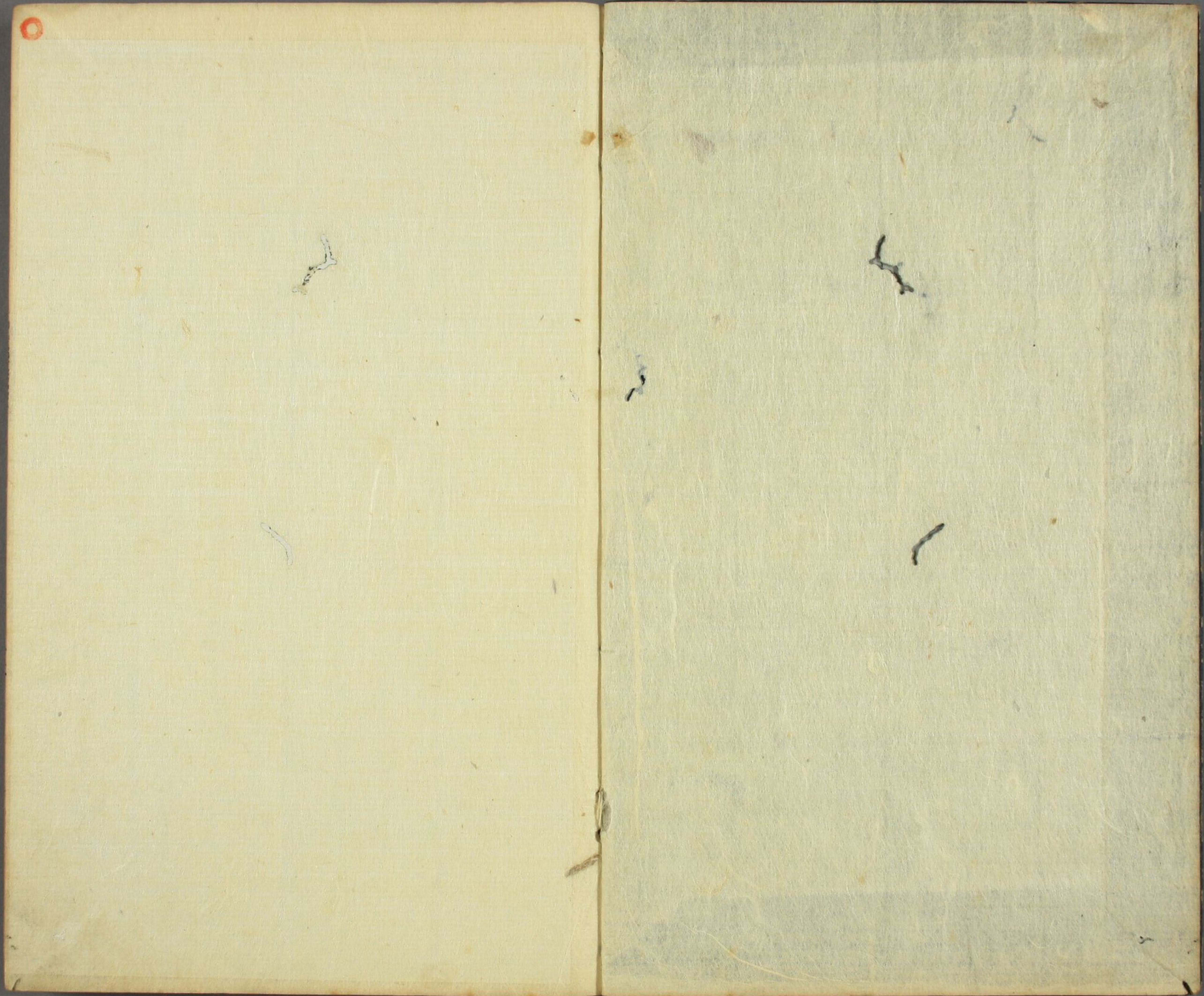




日本書紀
卷之五

日本書紀
卷之五







徳家巻第四之下

まよぬ中しやまらぐうて道あり路し中し
 のありくぬんあもあ人にもあまひまもあまひ
 一 路くだありまもまもあま事成道もあまあま
 一 もあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ
 一 うあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ
 一 けまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ
 一 とあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ
 一 有活物活らぬやううやまひあまひあまひあまひあまひ
 一 くせまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ
 一 とあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひあまひ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are some small annotations or corrections written above certain words.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and includes several lines of dense, flowing characters. There are some small annotations or corrections written above certain words.

Vertical text on the left margin of the right page.

Small mark or character on the left margin of the right page.

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

亦た其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て

亦た其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て
 其の心を以て其の心を以て其の心を以て

ありたあがりしるるはあしねと水のきくはちり
 けりしとあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 けんあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 けりしとあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 のいひたるに

杖云

めぐりあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 らしむるのしるるはあしねと水のきくはちり
 神のあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 とあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 其しるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 ぶらりしるる

神院

神のあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 けりしとあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 けんあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 けりしとあはれなるしるるのしるるはあしねと水のきくはちり
 のいひたるに

ひてきたてんせとくらぬけうのわがてんせも
 ぞ物だらとせしちちのちたぬけのわがてんせも
 ちぬけうぬけららぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 のららぬけららぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 とせぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 一ちちとせぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 ぬけのわがてんせ

狭

ち車つじぬけのわがてんせ
 あちちとせぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 八月十日のちちとせぬけのわがてんせ
 一ちちとせぬけのちちとせぬけのわがてんせ

ひてきたてんせとくらぬけうのわがてんせも
 ぞ物だらとせしちちのちたぬけのわがてんせも
 ちぬけうぬけららぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 のららぬけららぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 とせぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 一ちちとせぬけのちちとせぬけのわがてんせ
 ぬけのわがてんせ

右宮とぞ申さるるも給ひてははらうかやうか
 ありと云ふは後すもはらふもいとよむと
 院のほほはと云ふははらふもいとよむと
 一おとをたれと云ふははらふもいとよむと
 くは川にわんめはつたはつたはつたはつた
 せもあつてつたはつたはつたはつたはつた
 且とまはりしつたはつたはつたはつたはつた
 一と云ふはつたはつたはつたはつたはつた
 申ありつたはつたはつたはつたはつたはつた
 うははつたはつたはつたはつたはつたはつた
 乃給りつたはつたはつたはつたはつたはつた

たまひてつたはつたはつたはつたはつたはつた
 たりつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 ひしてつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 びつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 けつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 ひつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 けつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 とつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 まつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 乃つたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた
 一つたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

流りんとていづしきくはむもはるるゆへひちり
 ぢひせきもせしむひひくはむもはるるゆへひちり
 流りんとていづしきくはむもはるるゆへひちり
 ひりもる流りんとていづしきくはむもはるるゆへひちり
 あひひりんとていづしきくはむもはるるゆへひちり
 しくあひひりんとていづしきくはむもはるるゆへひちり
 せむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 えさむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 こまはむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 りちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり

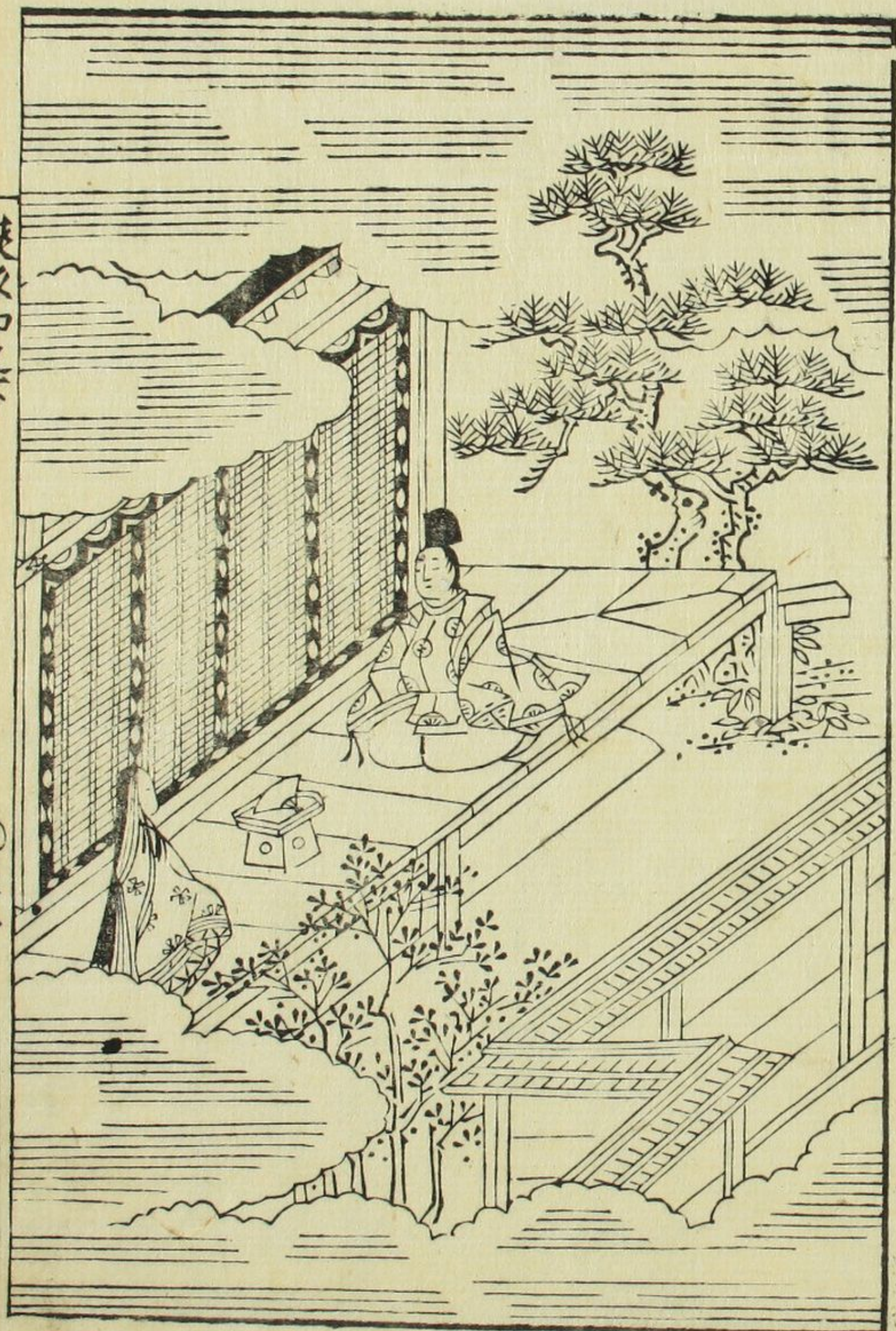
トラフていづしきくはむもはるるゆへひちり
 ようていづしきくはむもはるるゆへひちり
 とまはむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 せむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 やりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり
 ちりせむいづしきくはむもはるるゆへひちり

あまをあらぬひまをいづれかたたるはくもまもりとて
あしき事をもよほす事なき事なりしをいふは
と伝ちまをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは

あまをあらぬひまをいづれかたたるはくもまもりとて
あしき事をもよほす事なき事なりしをいふは
と伝ちまをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは
まをいふ事なき事なりしをいふは

あまをあらぬひまをいづれかたたるはくもまもりとて

あまをあらぬひまをいづれかたたるはくもまもりとて



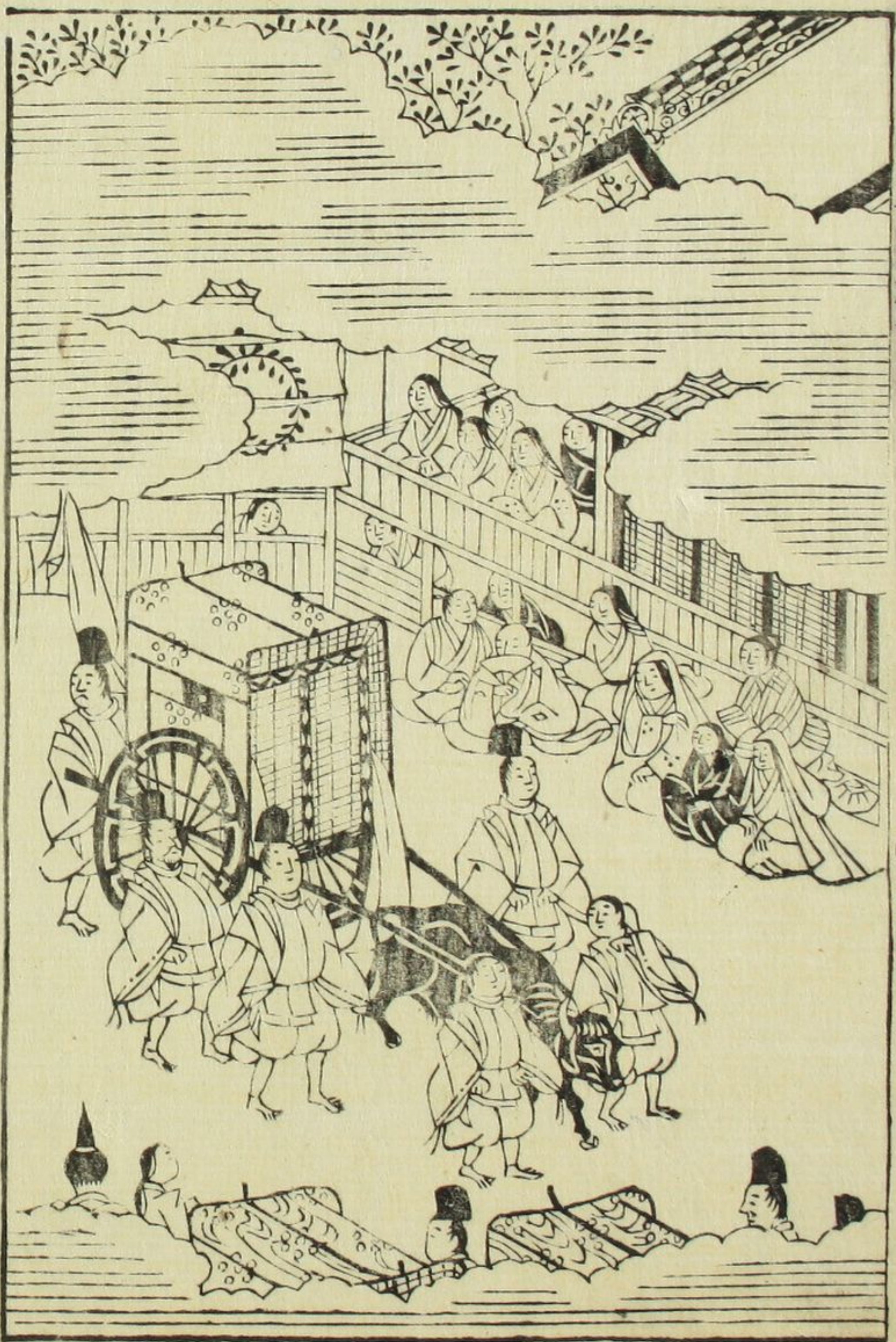
五七

三十一

けみぐさのうらつきとせほひてとあんなちかきとを
 けつしはくまとおがくせおまをほのまに
 やあがぬぬらん引とくせほりひちあまのほり
 ひまみ位乃落人よやあんなおがくせほひ
 ともあんなわんれあつまはちかきほひ
 ういしくりてまやあんなほり

五七

三十一



約つを中々させぬあゝぬらんら休あともうーと
 ぬぐーまはたんの身故んをまよりう海らより海
 つて大宮をうぬくしにままであみごり海くありー
 まんちあやうをとは物倍志びー斗あてそわま
 かんをより中を海くせたましいあからひ志くばらん
 うーあはうあつまらぶー「まゝか今上のくしあし二里い」
 ぬちんぬあひー上まの寄にみまひいしあ物とあぬやあぬや
あぬや
 うあはあひあやうをうりやをばはらんしけるあは
 へちやまーまらのはまーあめてあううーあをり
 竹つるうーあうーあてんらんしけるあをりま

長次四六六

三三三

て舞の法もしてさむいふもさかしまくしよの年れ
秋をさふとさくのま日平習ちまなれ^かがうあり
とめてうり〜まがみのまあるに掛く〜とみ
どの法うり〜まがみのまあるに掛く〜とみ
のありさ〜まがみのまあるに掛く〜とみ
るはありさ〜まがみのまあるに掛く〜とみ
あがり〜まがみのまあるに掛く〜とみ
ちめ度上人まどの馬〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ

い後らわらび〜まがみのまあるに掛く〜とみ
海のあつた〜まがみのまあるに掛く〜とみ
な〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ
〜まがみのまあるに掛く〜とみ

いふことなるべし

今上 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

わたりぬおもひの川波 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

ういふ東あはれ 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

がめだつ 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

ういの 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

まじ 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

せ 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

も 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

と 御入道 御色部 御色部 御色部 御色部

御色部

御色部

おののちらあつせんきすそとぬらん事おれうひ
けひしあもせいおうううももあがりきりあんに
木もたのしほとあつらふとにんぬあまをきり
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

のせり

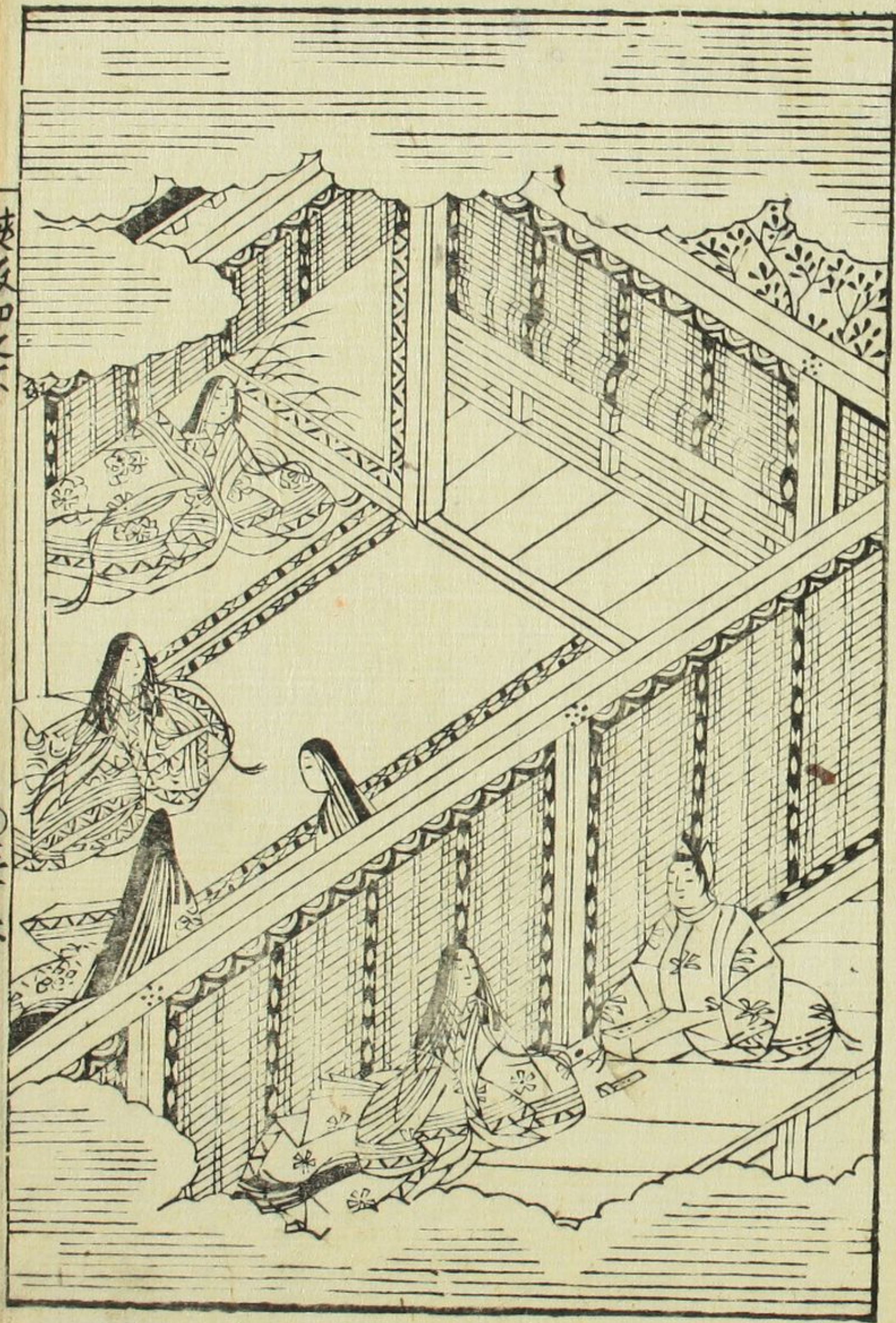
神今上うあつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと
あつらふとあつらふとあつらふとあつらふと

あまのうららみ

今上
 年はあつちの...
 せむし...
 扱...
 うち...
 終...
 と...
 な...
 ん...
 せ...
 め...
 し...

皇太后(仁孝帝の妹)の御...
 故交の...

の...
 路...
 路...
 せ...
 一...
 の...
 一...
 一...
 一...
 一...



きつとてはかみんちりあかきもねとるなりしゆりあまの
 うつろふはうあまきせいのあまをさひのあまのあまの
 あいあまうあまきせいのあまきせいのあまきせいのあま
 いあまきせいのあまきせいのあまきせいのあまきせいのあま
 きせいのあまきせいのあまきせいのあまきせいのあまきせいのあま
 きせいのあまきせいのあまきせいのあまきせいのあまきせいのあま

世中しつりしうゝ〜しあふちゐれて西し海り来るは
世をまなむがふとあり〜ま〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
さして花さく〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとく
んとしつりしうゝ〜しあふちゐれて西し海り来るは
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ

ちかむとるは〜りきけは〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ
〜ま〜るゝとぞとくさあへ〜は〜るゝとぞとくさあへ

後
日
本

三
十
七

とておんせもいふはよしのつらやうに人おもひ
たまり我とちちたらしきまじりあつるる
人のほこりもいふはよしのつらやうに人おもひ
しるしのほこりもいふはよしのつらやうに人おもひ
とちちのほこりもいふはよしのつらやうに人おもひ
おんあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
らだちひらきつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
さくあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる

うぬあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる
し思ひあつるるにわがしあつるるにわがしあつるる

徳和日記

三十一

そのはらへ大納言めてまふ宮元大吏たいぶけてそのし
終ひを家お一團いっぴくのまひやうとて今姫との母代志終り
入りまればひらやまぐそまあわらうとねさあち
て又あへいちへあひおしなるあなはぐーさいじ
はまやあまひひらぐさあへるさしはねと
まのくうさあてうてあまこ年とおまにま
まばりやあうさああるはひをあやう中より大
名ななまぐれ終れ終を大納言まらうままれま宮元
なうらうあうけちうとんとあがりおまのあふ
と母君今姫とのをむらうあひあがひして門ととえかんおま
おいらさういさあおまらうらうあのおおま

はあさうさうさああまたさうあまらうらうい
てはなばらうら終くままれくさういさあがり
らうらうあまぐら今上いじや大納言とひひ今上らう
終らうやう今上はらうはらうはらうはらう今上
らあひをは今上の末これあらあひあ今上ひ今上さ
ひさあしたごあひひらら事今上にのひひさあ終
とんまやうらうひららはらうはらう今上あま
とあ終ままをちあ今上にひあ今上あ今上あ今上
しとあがらうさうあ今上のあ今上らう今上
あ今上ひあ今上あ今上あ今上あ今上あ今上
とあ今上あ今上あ今上あ今上あ今上

おま

おま

りもさくきめさくしのみさくあざんりくしを
 むんぐらうとらうんあけ大あざんまてはありちん
 やちのさあさくしとくは然やうてあつたやちん
 家んぐしあさびざうしやあがりあさあさ
 じやうしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん
 りさくらりくしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん
 りさくらりくしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん

乃たまよもせと家今上二宮入今若竹のらうが浅女君の法志のらひ
 のやうにめてしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん
 りさくらりくしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん
 りさくらりくしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 ちてやあさんとさひあさくしとくは然やうてあつたやちん
 せしあさくしとくは然やうてあつたやちん
 けりけあつとくは然やうてあつたやちん

英和辞書

四十一

とちりけしきも昔よりなればゆくを肉乃を残さく
きそ切りしむらえよせたまふまばうりくもるを
おとせよあつらふちり一和ふもいぬ八切とちり
さそふひあつらふも其^{其の川の女}まきあつらふりのいぬ海
さしうりしけしきをばけしひまけくちありけく
見ゆかきせよあつらふ^{其の川の女}故るまはありさ海ちりせお
い^{今上りか}ありけあつらふもいぬやちりやちりさたあ
海ふりてあつらふん乃もいぬやちりあつらふ
いぬあつらふちりハ我ちりうりくべく
くいづるうり^{ハ程今上り}心の中^{狭い方}きりくまてけくあつら
らきりしけあつらふの程あつらふやうにさひいぬ

くあつらふちりひちりま^{ハ程今上り}いぬあつらふ
とあつらふせよあつらふとあつらふちりあつらふ
あつらふちりあつらふはあつらふちりあつらふ
のりくあつらふいぬあつらふちりあつらふちり
いぬあつらふちりあつらふちりあつらふちり
乃ちりあつらふちりあつらふちりあつらふちり
いぬあつらふちりあつらふちりあつらふちり
ちりあつらふちりあつらふちりあつらふちり
さ海ちりあつらふちりあつらふちりあつらふちり
ひちりあつらふちりあつらふちりあつらふちり
させたまふちりあつらふちりあつらふちり

海女

四十一

らずうあゝくあぢきらうらう

あぢきらうはあぢきらうのまじりにあり

人しきぬ入江のまじりにある人もあつて
まじりのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて

のせをぬきひしてあぢきらうのあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて
あぢきらうのあぢきらうもあぢきらうもあつて

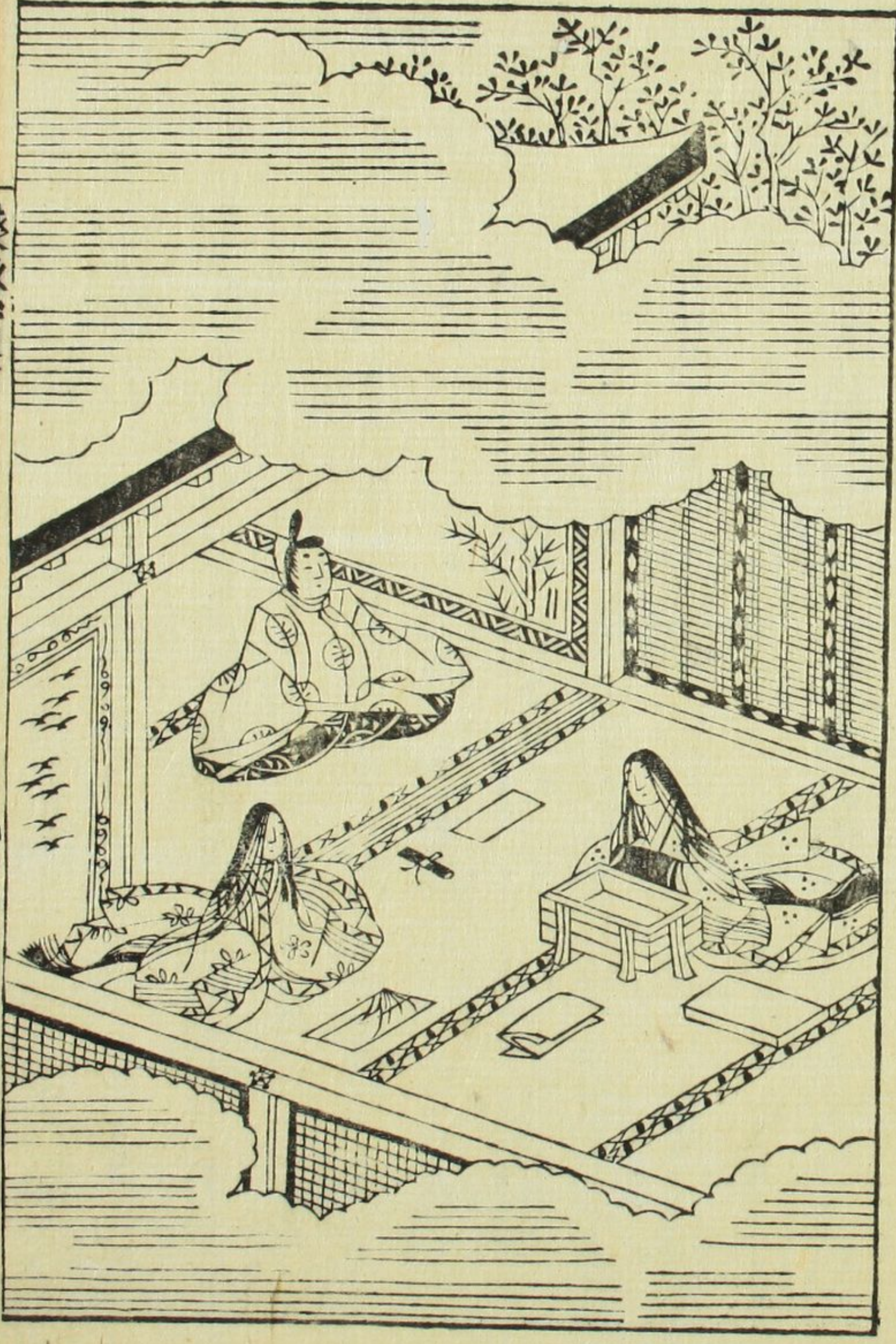
あぢきらう

あぢきらう

ぬあやしのちぐとも縁よりまをさそまわしひけり
 を尻云らをゆくのちゆらんせむをいよしひきまをゆり
 ーとさふあふ世へはあつくればるぐちあにぬりぞ
 侍ゆるありればちあふりたまさかひなほまや
 とせうもまふればきうもあがりぬんあふりや
 をむうこれ人のうりあははく若し又賜くるはあふりた
 のむいぢまをゆりしひちきやうひちくうまを
 ねねむーと志しつぎゆしけあふりそあひちけり
 ちき後あふりみちちね後の耐乳あふりおきしれ下し道成の御まひひひそりしう日つお
 であとえりけりさうゆ一とせうそまをさへにせ
 であらあーまふりやまこのまがうりぬまを

縁のまごぐらうりあふりてさあはりまはまよげは
 あふりまはまごぐらうりあふりてさあはりまはまよげは
 ちき後あふりみちちね後の耐乳あふりおきしれ下し道成の御まひひひそりしう日つお
 であとえりけりさうゆ一とせうそまをさへにせ
 であらあーまふりやまこのまがうりぬまを

るともいふまじりしめいさな海にせほひてありまは
 うのくおひしめまらし事うだりありしついでにあり
 と後ゆくちちちどもあふちてお無ひは
 ましり終ひし夜あくる日のひかり風乃をとな
 ひうひ曉乃空のきしちちちも我んまありし
 ちちちもせんとまらちちちを志あまひけりありく
 ちちちあわくしし終るまらちちちのまらちちち
 あつははくくちちちちちちちちちちちちちちちち
 のちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
 らずうしちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
 るちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち



源氏物語
 卷之五

五十一

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, contained within a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, contained within a rectangular border. The text is written in a fluid, connected style.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or reference.

Vertical text on the left margin of the right page, possibly a page number or reference.

Handwritten text in a cursive script on the right page. The text is enclosed in a rectangular border. There are several lines of text, with some characters written in red ink (likely corrections or emphasis). The script appears to be a form of early modern Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script on the left page. The text is enclosed in a rectangular border. There are several lines of text, with some characters written in red ink. The script is similar to the one on the right page.

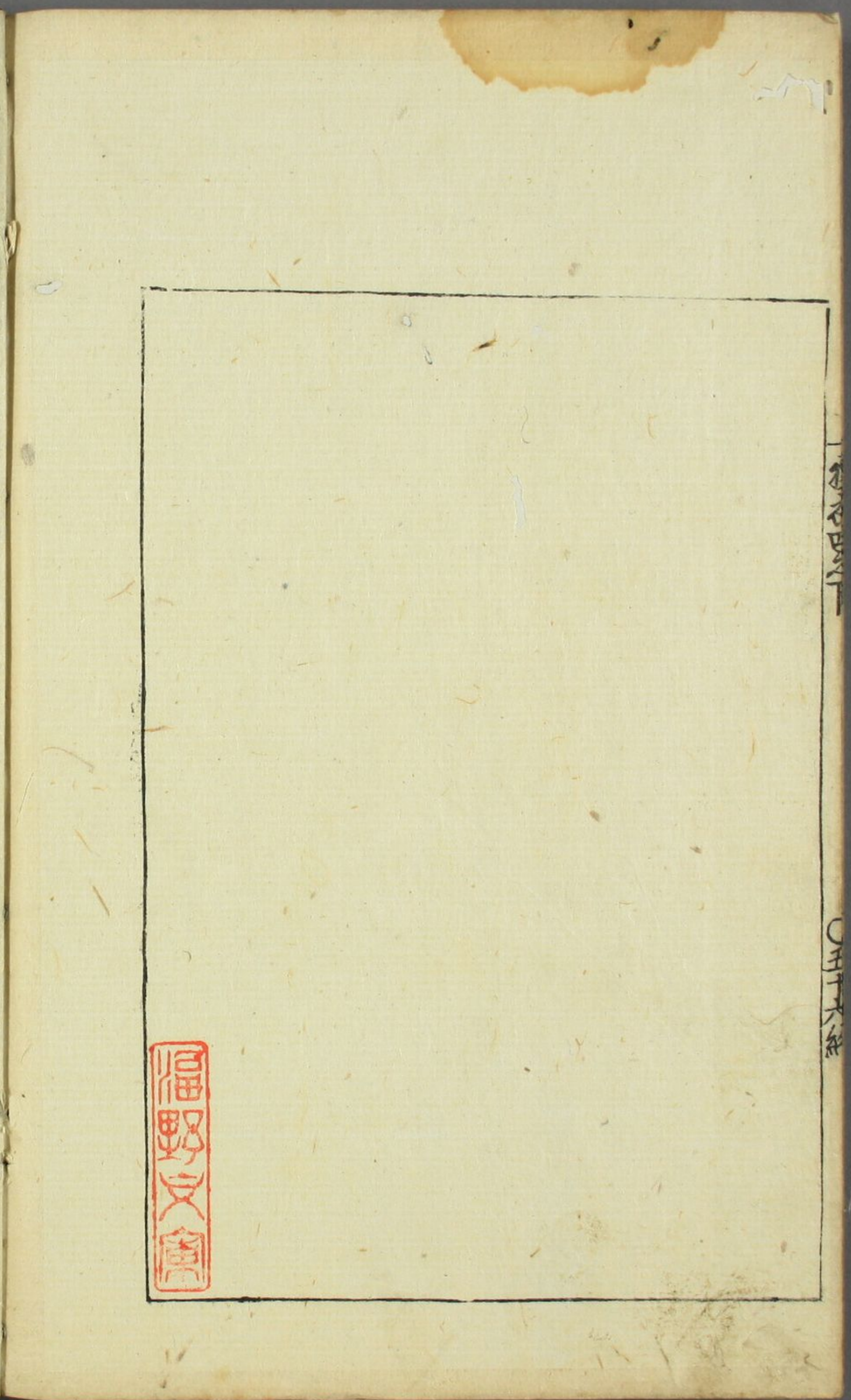
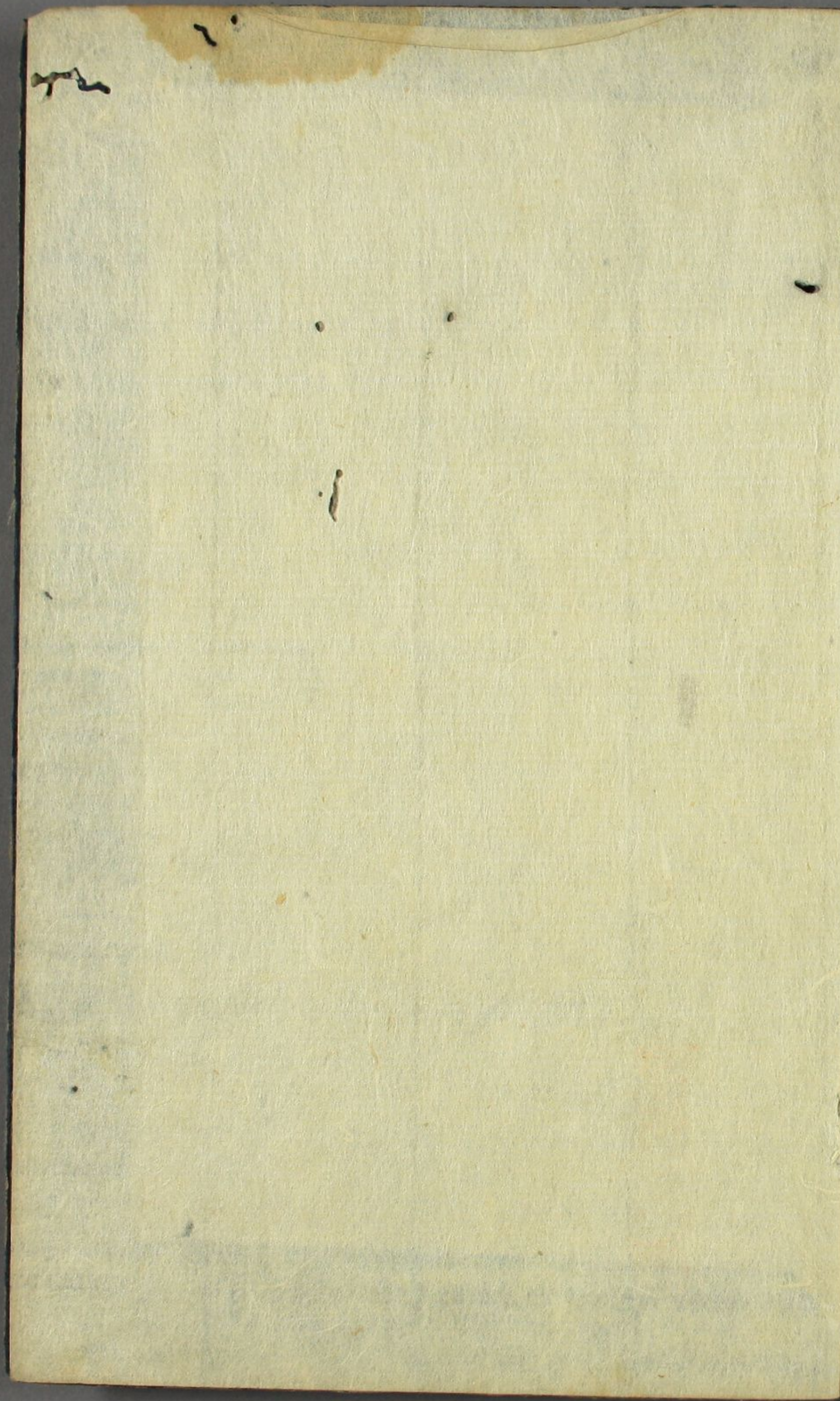
とおきうしとわりも死に居るはうらみもあ
 どりくしうめ程うらむとせし由ひ縁なごうん此も
 何ちんまじりちるやにありひなまへらあぐやまを
 させ給くは成さうせまふはもちとまもあぐいみ
 ぶれて物とおがえさせ給くぬりた大持事り給
 てはあしうあかたあまうし給うし給くさうさ
 ぬふ給くち申しおがひしちてしあせ給ひ
 ねはるよとあうまありあひあがりりされてはこ
 しにともなりあふはあの花はうらにまだなだれて
 夕霧やまじりびあてひとえだわしちるあ
 りのあたまもくえとあてうま申しあまもあましくし

人の心も事やうらうらんあまらぬあまの心もあま
 ちり氣交ふそまうくれらるまわりのあまが

一先んあま

全上
 ちちうらりあまうしあまあましくしあまあま
 らうんあまのあまあまうしあまあましくしあまあま
 ちのうらぬ人れうらうあまあまうしあまあましくしあま
 ちのうらぬ人れうらうあまあまうしあまあましくしあま
 ぬらうらうらうらうらあまあまうしあまあましくしあま
 えあまあま

雑言卷第四之下終



一
卷
之
終

五
十
六
終

福
安
堂

